

R7 鳴門海峡の渦潮 国際シンポジウム(案)

世界遺産登録をめざしている鳴門の渦潮。

これまで渦潮の形成過程や鳴門の特徴ある地形、渦潮と景観、渦潮と暮らしの関わり方など多くの研究を行ってきた。また、海外の渦潮の調査を行い、各国の渦潮の特徴や鳴門の渦潮との類似点等を分析する共同研究も実施している。

大阪・関西万博の開催により世界から関西に注目が集まるこの機会に、国内外の関係者参加による渦潮を中心に人々と海との関わりに関する国際シンポジウムを開催する。

シンポジウムでは鳴門の渦潮に関するこれまでの研究成果を踏まえた普遍的価値や海外の渦潮の状況を各関係者から発表するとともにユネスコ関係者より海の世界遺産の保護や持続可能な利用に関する記念講演を行う。

また、世界的に陸や海の効果的な保全が求められていることから、ユネスコ等の世界遺産関係者をお迎えし、世界遺産登録をめざす渦潮の魅力とともに海洋保全や海の適正利用についても考えるパネルディスカッションも開催する。

国際シンポジウム

日 時： 令和7年9月1日(月) 13:00pm ～ 16:35pm

場 所： ホテルニューアワジ プラザ淡路島 賀集の間

兵庫県南あわじ市阿万吹上 1433-2

テーマ 渦潮から考える海と暮らしの未来

スケジュール：

13:00-13:15(15m) 両会長挨拶(兵庫・徳島県知事)

13:15-13:35(20m) 鳴門の渦潮の普遍的価値(これまでの調査結果概要)

13:35-13:45(10m) 鳴門の世界遺産登録に向けた今後の取組の方向性

13:45-14:00(15m) 海外事例紹介1：ノルウェーノード大学

「サルトストラウメン海峡の渦潮」

14:00-14:15(15m) 海外事例紹介2：スコットランド スコットランド海洋科学協会(SAMS)

「コリーヴレックン海峡の渦潮」

14:15-14:30(15m) 基調講演1：ユネスコ

「海の世界遺産の最新動向 自然と共生する世界」

14:30-14:45(15m) 基調講演2：IUCN

14:45-15:00(15m) 基調講演3：ICOMS

15:00-15:15(15m) 休憩

15:15-16:30(75m) パネルディスカッション

「世界遺産と豊かな海」

コーディネーター 吉田正人(筑波大名誉教授 世界遺産学)

自然委員長、金田委員長、ノード大学、SAMS、ユネスコ、ICOMOS、IUCN、

淡路島民の会

16:30-16:35(5m) 鳴門のうずしおを守り伝えるメッセージ